

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	24000001	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	知識と技術の世代間伝播の霊長類的基盤		
研究代表者名 (所属・職)	松沢 哲郎（京都大学・霊長類研究所・教授）		

【平成27年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

本研究は、ボノボの導入によるチンパンジーとの比較研究を含め、新しい知見が着実に積み上げられ、全体として極めて順調に進展している。研究成果はトップジャーナルを含む国際英文誌にコンスタントに発表され、論文の被引用数も年々増加している。研究代表者に対する海外からの招待講演の数も多く、海外からの評価も非常に高い。また、若手研究者の人材育成にも成功している。国内向けのアウトリーチ活動も活発に行われ、長年の成果は、いまや日本を代表する科学研究の一つと評価できる。研究課題である「知識と技術の世代間伝播」に関しては、飼育チンパンジーの繁殖の不調やエボラ出血熱による野外調査の中断などの諸事情もあり、当初予定よりも遅れた部分もあるが、飼育施設の大規模な拡充や新しい実験ブースの新設など、当初目標を超える進展もある。今後は、人間理解という更なる大きな命題に向けて、理論構築も含め、人文・社会科学との一層の連携が期待される。